

研究課題名「COVID-19 流行前後のRSV感染症の臨床像の変化に関する多施設共同研究」に関する情報公開

1. 研究の対象

2019年1月1日～2021年12月31日に、名古屋大学医学部附属病院小児科および、当院を含めた協力施設において、RSV感染症と診断され入院加療を要した方を対象とします。

2. 研究目的・方法・研究期間

- ・研究目的：COVID-19パンデミック前後のRSV感染症の臨床像や疫学情報の変化をいち早く伝えること、乳児例だけではなく幼児初期でも初感染で重篤化する可能性があるかを検討することを目的とし、名古屋大学および当院を含めた関連病院におけるCOVID-19流行前後のRSV感染症入院症例のデータを収集し解析を行う。
- ・研究方法：名古屋大学医学部附属病院を情報収集の中心として、当院を含めた多施設共同研究として行います。2019年1月1日～2021年12月31日に、対象施設において、RSVと診断され入院を要した方の臨床情報を後方視的に検討します。
- ・研究期間：研究実施承認日 ～ 2023年3月31日

3. 研究に用いる試料・情報の種類

情報：診断時年齢、性別、入院日数、入院時のSpO₂、入院時の呼吸数、入院時の体温、呼吸補助の有無、呼吸補助の種類、ICU入室の有無、パリピズマブ投与の有無、パリピズマブ投与理由、基礎疾患の有無、肺炎の有無、ステロイド使用の有無、抗菌薬使用の有無、合併症の有無

4. 外部への試料・情報の提供

データセンターへのデータの提供は、特定の関係者以外がアクセスできない状態で行います。対応表は、当院の研究責任者が保管・管理します。

5. 研究組織

- ・研究機関：名古屋大学医学部附属病院小児科（川田潤一）
- ・協力施設：日本赤十字社愛知医療センター名古屋第一病院（大城誠）、厚生連安城更生病院（久保田哲夫）、岡崎市民病院（長井典子）、碧南市民病院（土井悟）、トヨタ記念病院（原紳也）、名古屋掖済会病院（星野伸）、あいち小児保健医療総合センター（鈴木基正）、春日井市民病院（河邊太加志）、中津川市民病院（木戸真二）、名古屋記念病院（長谷川真司）、公立西知多総合病院（青嶋努）、名鉄病院（渡邊修大）、大垣市民病院（倉石健治）、愛知医科大学（倉橋宏和）、公立陶生病院（森下雅史）、半田市民病院（篠原修）、江南厚生病院（西村直子）、豊田厚生病院（梶田光春）

括弧内は各施設における研究責任者です。

6. お問い合わせ先

本研究に関するご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせ下さい。

ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、研究計画書及び関連資料を閲覧することが出来ますのでお申出下さい。

また、試料・情報が当該研究に用いられることについて患者さんもしくは患者さんの代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象としませんので、下記の連絡先までお申出ください。その場合でも患者さんに不利益が生じることはありません。

照会先および研究への利用を拒否する場合の連絡先：

愛知医科大学

小児科学講座 講師 倉橋宏和（研究責任者）

住所 愛知県長久手市岩作雁又 1-1

電話 (0561)62-3311(代表)